

エコロジカルな回心 —すべてのいのちを守るため—

島原修道院

新しい年を迎えました。昨年は地球温暖化による異常気象で夏の猛暑、豪雨による災害など各地に起こり、環境危機が迫っていることが手に取るほど誰にでもよくわかる時になりました。島原でも冷房なしには過ごせない暑さでした。そんな中でも、外に出て木陰を通してくる風の心地良さは、冷房とは違う、創造主のやさしさが身にしみます。個人の努力ではどうにもならないのではないかと思います。それでもすべてのいのちを守るために、私たちがささやかなエコロジカルな生き方を求め続けています。

島原市ではごみ減量への協力が求められています。修道院も町中にあるので、草一本でもごみの中に入れなければ処理できない。そうなれば雑草が大きくなる前に抜いて干し、軽くなったものをごみに入れる、また出来るだけ根から雑草を取ることによって少しでも減量するよう努めています。大きな庭なので、ごみの大半は草木です。庭木も剪定後乾かしてできるだけ腐葉土づくり、あるいは果樹の根元において木を守るようにしています。こうし



て二袋出すところを1袋に抑えるよう地域のエコと共に努めています。夏にはこの庭を日照りから守るために水かけは必須です。井水を使って2・3日を目途に、庭と畑全体に散水を行います。教会に飾る花も年間を通して大半をこの畑で咲いた花・木でまかっています。庭にはカラス、ハト、スズメはもちろん小さな小鳥たちがやって来ます。私たちが庭木の手入れをしながら、大地や草木に教えられ学びながら、すべての被造物とともに神を賛美しています。

食の部では昨年4月からコンポストを購入して生ごみを堆肥にリサイクルしようとしています。また温めるためにレンジを使わないで鍋帽子を使って料理したものを保温しています。少人数の料理なので毎日利用しています。お茶の湯も沸かしたものをポットに入れて保温して

食事の時に使い、ちょっとの手間をかけることで電気の消費に心がけています。

「一人ひとりが変化することなくして文化が変わっていくことはない、と気づく必要性」「汚染および廃棄物の削減そして賢慮ある消費という家族ごとの努力が新たな文化を創出」という教皇様の言葉に心を合わせて励みたいと思います。

